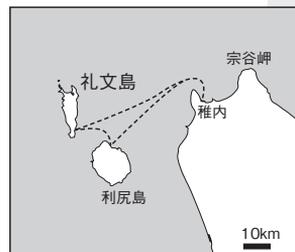


## ●交流促進●

交流拡大に向け、  
台湾での観光プロモーションなどを実施

北海道礼文町総務課



## ◆はじめに

北海道の本土稚内市の西方五九キロメートルの日本海上に位置する礼文島は、周囲七二キロメートル、面積八一・三三平方キロメートル、島名はアイヌ語の「レプンシリ（沖の島）」に由来する、水産業と観光産業の島です。

水産業では、ウニやコンブ、ホッケなどをはじめ海の幸が豊富ですが、近年、景気の低迷に加え漁業者の減少と高齢化が加速し、就業者対策に苦慮している状況です。

観光産業は、本島固有種の「レプンアツモリソウ」をはじめとする数百種の可憐な高山植物が咲き誇り、本島西海岸の奇岩や岬、断崖絶壁を望みながらのトレッキングが人気です。しかしながら、観光入込数は平成一四年度実績の三〇万八四〇〇人をピークに一貫して減少傾向が続き、同二四年度では一三万三九〇〇人（ピーク時の約四三パーセント）

となりました。交流人口の減少は、礼文島へのアクセスがカーフェリーに限られていることなども大きな要因と考えられています。

## ◆礼文島産業活性化事業

本島では、このような現状を打開しようと「礼文島産業活性化事業（交流促進事業）」を展開することとしました。これは、離島の地理的特徴や豊かな自然環境など、潜在する資源を最大限に活用し、観光産業はもちろん、それにもない刺激される水産業をはじめとする地域産業の活性化を図ることを目的としたものです。

「交流拡大のための取り組み」は、以下の五つに分類されます。



礼文島西海岸の名所・桃岩。



パンフレットなどを見せながらエージェントに商品进行説明。

## 1. 島だより発信事業

パンフレットの制作やホームページの更新、雑誌掲載など、礼文島の魅力あれこれを、観光協会などのホームページを中心に随時情報発信しました。また、旅行会社や航空各社に対しても随時情報提供を行うとともに、観光関連機関などが発信しているツイッターへの掲出や、各種観光関連誌を活用した情報発信なども実施しました。

## 2. 島ぐるきっかけづくり事業

台湾でのプロモーションやセールスコールの実施、モニターツアーの実施、航空会社と協働し主力エージェントに対する礼文島ツアーの造成や既存商品のPR強化、関係機関との連携による積極的なPRを展開しました。

## 3. 島あるき案内事業

島の玄関口である香深港かかかフェリーターミナルを中心に案内人を配置し、さまざまな観光ニーズや相談に対応しました。

## 4. 島よかつた事業

礼文島を舞台にしたフォトコンテストを開催し、本島への再訪に向けたメモリアルづくりに取り組みました。

## 5. 島びと発掘事業

観光事業推進の中心となる「若者」や「おかみさん」たちによる会議を開催し、スキルアップや事業アイデアの発掘に努めました。

## ◆台湾でのプロモーションの実施

(島にくるきっかけづくり)

交流拡大のための取り組みのうち特筆したいのは、台湾でのプロモーションの実施です。

北海道への訪日外国人約七九万人(平成二四年度)のうち、台湾は二八万人と最も多くを占めます。日本政府観光局(JNTO)によると、同国からの訪日はツアーが主体でリピート率が高く七四・八パーセントとなっています。歴史的にもわが国との交流が長く、また親日本の多い国です。近年は少しずつ変わってきましたが、礼文島ではまだまだ外国人にアレルギーがあることは事実です。そこで、インバ



稚内市と合同開催したセミナーと交流会の様様。

ウンドの始まりとしてご縁の深い台湾が最もマッチングが良いと判断しました。

現地のプロモーションは礼文町が単独で開催。パンフレットやポスターを活用して特に興味があると思われる地域の「食」を中心に定番をPRしました。宿泊面では価格表をもとに部屋の説明。食の面では食堂の写真メニューを見せながら価格の説明を行いました。このほかセミナーを稚内市と合同開催しました。

台湾では、道央・道東の情報はあるが、道北は比較的情報が少なく、中でも秘境・礼文島のグリーンシーズンへの反応は大きかったように感じます。ただ、バスをチャーターし移動するため、稚内・利尻・礼文間のフェリー運賃などがハードルである事も確かです。そこで、高額商品を中心にエージェントのオリジナルツアーの催行も依頼しました。統計的にはまだはつきりしていませんが、今シ

ーズンはツアーを見かける機会も多く、事業の効果は出ていっているように感じています。

#### ◆交付金のさらなる活用に向けて

上述した事業の展開などにより、観光入込数は、平成二五年度実績で対前年一八〇〇人の増加に転じ、長く続いた観光入込数減少に歯止めをかけることができました。

離島活性化交付金制度は、それぞれの地域に見合った離島活性化諸事業の展開や事業内容のグレードアップに大きなメリットを与えるものと思います。本交付金がより活用され地域活性化事業が積極的に展開されるためにも、「補助率の嵩上げ」や「補助裏財源の確保」、「事業メニューの柔軟な運用」や「支援期間の延長」などを期待しています。礼文島地域においても、今後さらに、人々が住み続けたと思う島づくりを目指し、「新たな産業の創出と雇用の場の拡大」への取り組みや、「マスコットキャラクタ―、あつもん」を活用した全国規模のイベントにおけるPR、「漁業従事者・後継者支援」などを積極的に推進していきたいと考えています。■



礼文町のマスコットキャラクター「あつもん」。